

ひかり味噌が推進する独自の「循環型 3R モデル」 有機性廃棄物を活用した土壌改良剤を地域の農家に提供

ひかり味噌株式会社(長野県諏訪郡下諏訪町、代表取締役社長 林 善博)は、味噌の生産工程で排出される大豆の皮などの有機性廃棄物を活用した土壌改良剤を、ひかり味噌飯島グリーン工場が位置する長野県上伊那郡飯島町の「道の駅 田切の里」(長野県上伊那郡飯島町田切 2598-1)にて農家に提供しています。その土壌改良剤を利用した農地で作農された野菜や果物は、「道の駅 田切の里」にて販売され、地域の皆様の食卓に届けられます。

地域に根差した企業として、独自の「循環型 3R モデル」を推進し、地産地消への取り組みを積極的に実施し、今後も地域の農業発展に貢献してまいります。



土壌改良剤



土壌改良剤を活用した農地で育ったねぎ

◆有機質肥料の利用促進

日本の農地では、有機質肥料の投入が減少し、地力の低下によって農産物の生産性が減退しつつあります。昨今、SDGs や資源循環の観点からも、より多くの有機質肥料の使用が望ましいと考えられています。2021年に農林水産省がまとめた「みどりの食料戦略システム」の構想では、2050年までに化学肥料の使用量を30%削減する数値目標が掲げられています。このような背景の中、今後ますます土壌改良剤等の有機質肥料の利用が期待されています。

◆**ひかり味噌独自の「循環型 3R モデル」**

ひかり味噌は、「自然の恵み、いただきます。」をブランドメッセージとし、原料調達から生産現場に至るまで、社会環境への配慮に努め、いち早くSDGs への取り組みを始めました。限られた資源を有効に循環活用することにより、環境や地域社会と調和した企業活動を行っています。

【REDUCE (量を減らす)】

生産工程において発生する有機性廃棄物を工場敷地内で再発酵させ、生成したメタンガスを燃やすことでクリーンエネルギーを発電しています。これにより有機性廃棄物は 1/4 に削減されます。メタンガスはボイラーの燃料として生産にも活用しています。

【RECYCLE (資源を再利用する)】

有機性廃棄物は、リサイクル化委託先にて木質チップ等と混ぜて発酵することで、通気性・保水性・保肥性および取り扱い易さに優れた土壌改良剤として再利用できます。有機質肥料である土壌改良剤は農地の土をやわらかくし、化学肥料を使用する場合と比べて農地の持続性を高めるとされています。大地からの恵みである大豆や米などの味噌の原料。その加工工程から排出された有機性廃棄物を、大地に戻し循環活用しています。

【RESPONSIBILITY (責任)】

土壌改良剤は現在、地域の農家に提供しています。今後も「道の駅 田切の里」や地域行政と連携し、土壌改良剤の効果的な活用方法の確立に向け、地域に根差す企業の社会的責任として農業発展に貢献します。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

ひかり味噌株式会社 コーポレートマーケティング本部 広報室 TEL:03-5940-8848(代)

ひかり味噌株式会社 PR 事務局 担当:松田・大塚・石井

TEL:03-6261-7413/FAX:03-6701-7543/Mail:info@kmcpr.co.jp